



2025.08.12

No.014



日本航空 1 2 3 便墜落事故から 4 0 年

「信頼して乗ったのに、、、」

私たちは公共交通機関を担う一員として
今一度、命の重さを考えよう

1985年(昭和60年)8月12日18時56分に発生した日本航空123便墜落事故から40年が経ちました。

お盆休みで123便はほぼ満席で、航空機の単独事故として生存者4名・死者520名という、航空事故史上最悪の事故となりました。

鉄道業に従事している私たちも決して他人事ではなく、安全をいかに作り出すかは、共通かつ永遠の課題です。私たちが働くJR東日本では、これまで考えられなかった事象や命を奪いかねない事象が相次いで発生しています。改めて、命を預かる公共交通機関として「命を第一」にする企業風土を創らなければなりません。しかし、JR東日本会社は利益のみを追求し、組合員への差別・区別をする企業体質は当時の日本航空の体質と同じではないでしょうか？

事故当時の日本航空の企業体質を学び、二度と不幸な事故を起こさせないために行動しよう！